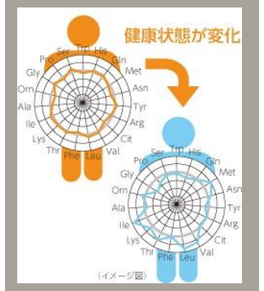
体内のアミノ酸バランスの違いによりがんのリスクを評価する新しいアプローチ

がんの物理的変化をとらえる画像診断や細胞診、腫瘍産生物が指標の腫瘍マーカー、HPV 検査やピロリ菌検査などがんのリスクになり得るウイルスや菌の検査、遺伝子変異によるがんには遺伝子検査などがあります。アミノインデックスは健康な人とがんである人のアミノ酸濃度のバランスの違いを統計的に解析し、現在がんである可能性を評価しています。



アミノインデックス受診結果の留意点

アミノインデックスは、生涯にわたってのリスクを予測するものではありません。 また、がんの有無を直接調べる検査ではありませんので、検査結果区分が「ランク A」でも 100%がんではないとは言い切れません。また、「ランク B」や「ランク C」でも、必ずしも、がんである訳ではありません。
がんになると共通に変化するアミノ酸があるため、ひとつの臓器にがんがある場合、 複数の アミノインデックスの項目について「ランク B」や「ランク C」となることがあります。アミノインデックスの検査結果の解釈や必要な精密検査に関しては、その他の検査結果とともに 総合的に判断して下さい。

アミノインデックス(血液検査)とは

アミノ酸濃度のバランスから一度に複数のがんリスクを評価

血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康な人とがんである人のアミノ酸濃度のバランスの違いを統計的に解析することで、現在がんである可能性を評価する検査です。早期のがんにも対応しています。

評価対象がんとがん種別評価対象年齢

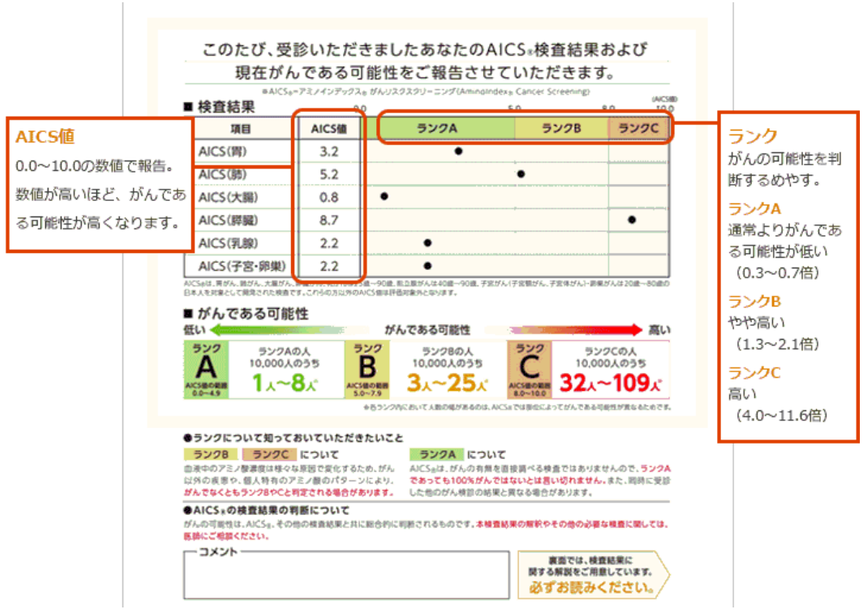
男性 5 種･女性 6 種のがんリスクを評価

検査項目名称	評価対象がん	がん種別 評価対象年齢
男性 AICS[5 種]	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん	25 歳～90 歳
	前立腺がん	40 歳～90 歳
女性 AICS[6 種]	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん	25 歳～90 歳
	子宮がん･卵巣がん	20 歳～80 歳

※子宮がん・卵巣がんについては、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんのいずれかのがんであるリスクを評価することはできますが、それぞれのがんのリスクについて区別することはできません

注意事項
- 検査時に妊娠されている方、授乳中の方、がん患者（治療中を含む）の方、先天性代謝異常の方、透析患者の方は、数値に影響が出ますので、検査は受けられません。
- 検査前 8 時間以内に、水以外（食事、サプリメント等）は摂らないでください。
- 正しい検査結果を得るために、できるだけ検査当日朝の運動はお控えください。
- 薬剤の検査への影響に関しては分かっておりません。検査当日のお薬の服用方法については、事前に主治医にご相談の上、その指示に従ってください。

アミノインデックス検査結果報告書サンプル



アミノインデックス検査料金・項目

アミノインデックス検査費用（男女共）　23,000 円（税別）
男性：胃がん、肺がん、大腸がん、すい臓がん、前立腺がん
女性：胃がん、肺がん、大腸がん、すい臓がん、乳がん、子宮・卵巣がん

医療法人順秀会
情報誌

医療通信

Junshukai Medical Corporation
Medical Information Magazine

4 種類の最新血液検査

ミアテストで測定するマイクロ RNA とは

マイクロ RNA は、約 22 個の遺伝子情報からなる小さな RNA（リボ核酸）で、エクソソームという小さい粒子に包まれて、細胞や組織から血液中に放出されます。エクソソームは体中に存在しますが、がん細胞などからは特別なエクソソームが放出されるため、早期の段階から疾患のリスク判定に役立てることができます。

ミアテストの注意事項

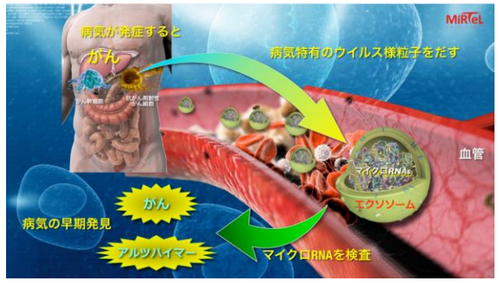
ミアテストはがんやアルツハイマー型認知症のリスクを判定する検査であり、病気の進行度に関係なくリスクを検知します。また、確定診断検査ではないためリスクが高い場合は医師と相談して精密検査を受けることを推奨します。

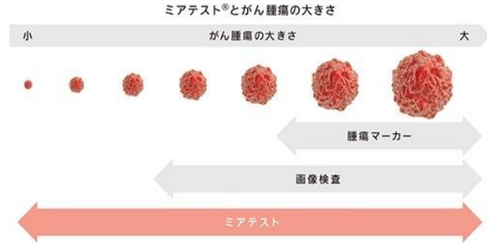
ミアテストはがんやアルツハイマー型認知症の疾患に対して高感度でリスクを捉えるためリスクを見逃しにくい検査です。しかし、どんな検査も完全ではありません。擬陽性といって、リスクがないのに「ある」と判定されたり、偽陰性といってリスクがあるのに「ない」と判定される場合もある事をご理解ください。

ミアテスト（血液検査）とは

疾患により変化するマイクロ RNA の種類や量を検査

ミアテストでは特定のがん患者の血液中でのみ変化している数種類の「マイクロ RNA」という分子を検査します。血中のマイクロ RNA 量は、非常に高感度で検出できるため、初期のがん細胞を発見できる可能性があります。従来の検査とは違い、腫瘍マーカーなど従来の検査が反応する 前段階や画像検査で見つけることが難しい 1 センチ以下のがんでも早期発見できる可能性が高くなります。(遺伝子検査ではないので、定期的な検査をお勧めします。)





より高い精度と疾患特異性の「ミアテストプラチナ」

乳がん、すい臓がん、アルツハイマー型認知症の単独検査の場合、疾患に特異的なマイクロ RNA の発現量のみ測定しますが、プラチナ検査全項目あるいは全項目の中で任意の 3・5・10 項目検査の場合は、血液中の全小分子 RNA 全てのデータを取得し、発現量に加え配列変化も加味して評価するため、より高い精度と疾患特異性を実現できます。

ミアテストプラチナ検査結果報告書

検査料金・項目

プラチナ男性 12 項目・プラチナ女性 13 項目	230,000 円（税別）次世代シークエンス解析
3 項目（下記より 3 項目選択）	120,000 円（税別）次世代シークエンス解析
5 項目（下記より 5 項目選択）	160,000 円（税別）次世代シークエンス解析
10 項目（下記より 10 項目選択）	210,000 円（税別）次世代シークエンス解析
乳がん（単独 PCR 検査）	25,000 円（税別）PCR 検査
膵臓がん（単独 PCR 検査）	50,000 円（税別）PCR 検査
アルツハイマー型認知症（単独 PCR 検査）	50,000 円（税別）PCR 検査

がんの検査部位：①肺 ②食道 ③胃 ④大腸 ⑤肝臓 ⑥膵臓 ⑦腎臓 ⑧甲状腺 ⑨脳 ⑩胆のう
⑪前立腺（男性のみ）⑫乳房（男女共）⑬子宮頸部（女性のみ）⑭卵巣（女性のみ）

マイクロアレイ血液検査注意事項

●検査をお勧めできない方

マイクロアレイ血液検査に影響を及ぼす事がわかっている以下のお薬を内服、注射にて投与されている方は検査を受けられません。

- 副腎皮質ホルモン（吸入ステロイド剤を除く）
- インターフェロン製剤
- 免疫グロブリン製剤
- 生物学的製剤（インフリキシマブ：商品名レミケイド）など
- ワクチン（接種直後）

●検査結果が正しく判定されない可能性がある方

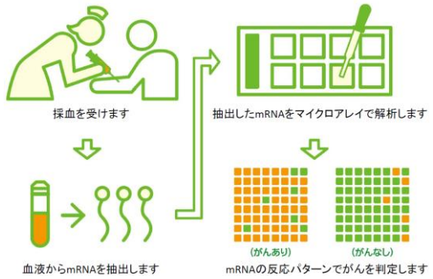
- がんと診断されている（部位は不問）
- 自己免疫性疾患（潰瘍性大腸炎、全身性エリテマトーデス、自己免疫肝炎、関節リウマチ等）と診断され現在治療中の方
- 大腸や胃のポリープを切除して 1~2 年未満の方
- B 型肝炎ウイルス・C 型肝炎ウイルスによる肝疾患と診断されている方
- 肝嚢胞、腎嚢胞、胆のう腺筋腫症と診断されている方

※マイクロアレイ血液検査はがん治療後の再発チェックや抗癌剤の効果の判定には適しません。

マイクロアレイ血液検査とは

胃･大腸･胆道･すい臓のがんを 1 回の採血で判定

がん細胞を攻撃する際に生じる遺伝物質（mRNA）のパターンを測定することで、がんの有無を遺伝子レベルで判定いたします。胃がん・大腸がん・胆道がん・すい臓がんの４つのがんの有無を１回の採血で判定することができます。



マイクロアレイ検査の特徴

がん細胞への生体反応を直接見るため 90%以上の感度

マイクロアレイ血液検査による消化器がんの有無判定解析は、胃・大腸・膵臓・胆道それぞれのがん患者を対象として、健康な人との比較による臨床試験を重ねました。それにより、従来の腫瘍マーカー検査ではその感度（「がん」と正確に判定）が概ね 20%程度と課題がありましたが、マイクロアレイ血液検査による消化器がんの有無判定解析では体の反応を直接見るため、90％以上の感度であり、早期の癌でも陽性反応を示します。

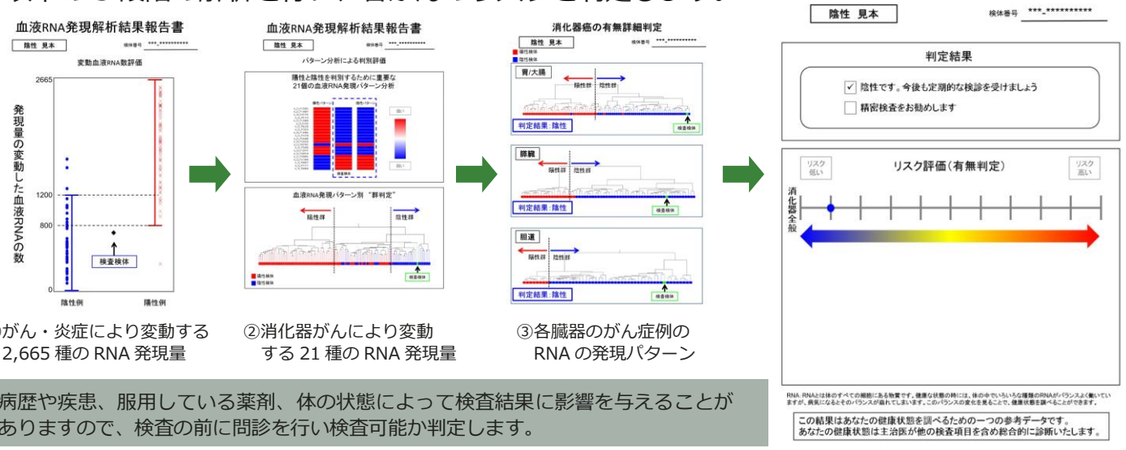
マイクロアレイ血液検査では

消化器がんへの高い感度･特異度

消化器がんの方に本検査を実施	消化器がんでない方に本検査を実施
陽性と判定できた割合 **98.5%（感度）**	陰性と判定できた割合 **92.9%（特異度）**

マイクロアレイ血液検査報告書イメージ

以下の 3 段階の解析を行い、各がんのリスクを判定します。



①がん・炎症により変動する 2,665 種の RNA 発現量

②消化器がんにより変動する 21 種の RNA 発現量

③各臓器のがん症例の RNA の発現パターン

病歴や疾患、服用している薬剤、体の状態によって検査結果に影響を与えることがありますので、検査の前に問診を行い検査可能か判定します。

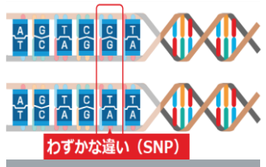
マイクロアレイ血液検査費用　　85,000 円（税別）

一つの遺伝子で全て決定するわけではない

一つの遺伝子で個人の体質、病気の進展・発症を決定付ける遺伝病のような遺伝子は極めて稀なもの(遺伝病)です。一般的な個人体質は、複数の遺伝子(SNP)と生活習慣の影響を受けていることが明らかになってきました。
従って、一つの遺伝子だけで個人の体質を評価することはできません。

どうして遺伝子検査で病気のリスクがわかるの？

人間の設計図（遺伝子の配列）は、99.9%が同じですが、残りの 0.1%が個人の違いを生んでいます。この違いを SNP（一塩基多型）と言い、本検査ではこの違いを調べます。



また、大阪大学医学部の研究成果を中心として、多数の日本人データに基づいて評価しています。さらに、測定する遺伝子(SNP)は、科学的根拠が明らかになっており、極めて重要度が高い遺伝子(SNP)だけを採用しております。

サインポスト遺伝子検査（血液検査）とは

遺伝子を分析し、一度に 12 の生活習慣病等のリスクを評価

食事や運動に気をつけていても生活習慣病になりやすい人もいれば、逆に何もしなくても生活習慣病になりにくい人もいます。その個々の体質を調べるのが「サインポスト遺伝子検査」です。高血圧や脂質異常症、糖尿病など生活習慣病と関連が高い分野にプラスして、血管性の病気やアレルギー、物忘れなど　気になる遺伝的リスクを事前に知り、対策を可能にする健康管理の新しい血液検査のご提案です。

検査項目（検査する遺伝子の数）	検査する遺伝子の主な働き
肥満（７）	脂肪の分解･燃焼･エネルギーへの変換、食欲調節の働き
体内老化（７）	活性酸素の除去及び作成･過酸化水素の分解･脂質酸化の抑制
動脈硬化（８）	血管の傷･炎症をおこしやすくする、善玉ホルモンを作りやすくする 血圧をあげる、新しい血管を作る、血管を固まらさせる
コレステロール（７）	コレステロール（悪玉･善玉）の働き･中性脂肪の分解
高血圧（５）	血圧を高くさせやすくする
高血糖（８）	インスリンの働きを低下させる
血栓（５）	血液を固まりやすくする、血栓をできやすくする
アレルギー（４）	アレルギーをおこしやすくする
アルコール（３）	アルコール･アセトアルデヒドを分解する、アルコール依存のしやすさ
非アルコール性脂肪肝炎（７）	肝臓の炎症･脂肪蓄積･酸化をしやすくする、肝臓の代謝
ロコモ：筋力低下（５）	筋力の低下･老化をしやすくする、速筋の働き
もの忘れ（５）	アミロイドβ蓄積の促進、血管を傷つける物質の増加、 コレステロール代謝異常、脳神経細胞修復の弱さ、炎症反応の異常

ご自身の保有遺伝子（SNP）に基づくオリジナル報告書（約４０ページ）には、遺伝子検査の結果と、それに基づくライフスタイル・推奨される栄養成分などをご提案します。

サインポスト遺伝子検査結果報告書サンプル

サインポスト遺伝子検査の特徴

- **１回の血液検査で 12 項目の遺伝子検査**
- **内容の充実した報告書（わかりやすい検査結果と推奨されるライフスタイル、栄養成分をお知らせ）**
- **一生に一度の検査（測定する遺伝子は一生変わりません）**
- **検査費用 38,000 円（税別）**